

ひまわりからの メッセージ

164号

2025. 8. 15.

NPO ひまわりの花内
西濃 圏域
発達障がい支援センター

発行人: 中野たみ子

厳しい暑さの中で 思い出したこと



暑い日が続いています。外に出ると日射しの強さに驚かされます。昔は暑いと言ってもこんな強い日射しではなかったと思い、ふとエジプトの強い日射しを思い出しました。そして同時に何故エジプトに行ったのか……と思い出したのです。それは娘の「お母さんは一度も私と二人で旅行に行ったことないよね？」の一言でした。

実は昔、私はこだわりの強い自閉症の男の子を担当したことがありました。その家族はとも仲の良い一家で、自閉症の子には、いつもやさしい姉がつきそっていてくれました。弟の手をつなぎ、世話を焼くのですが、その姉と弟の姿は何ともほほえましく、私もお母さんも安心しきって二人を見守っていたものでした。弟の育児はと

ても大変で、小学校に入学後も度々パニックを起こし担任が代わるたびに問題行動？が起きたのでした。お母さんと一緒に、その都度対策を考え、育児の相談はずっと続けました。

弟が施設に入所した年のことです。お母さんから涙声の電話がかかってきました。「先生、どうしよう。姉が一度でいいから私と二人だけで買物に行ってもらいたいと言ってます」と。私はしまったと思いました。私たちは、やさしくて、とても良いお姉ちゃんと思っていた彼女の心の中の辛さや寂しさに少しも気づいてなかったのです。たった一度で良いから弟の手をはなれてお母さんと二人だけの時間ももちたいと願っていたことを見逃してしまっていたのだと、その時私たちは気づかされたのです。彼女はその後長く様々なことで傷つき心を病むことにもなりました。

私はこの姉弟の一家とずっとかわって来ましたが、気づけなかったことへの後悔をずっと持ちつづけてきました。だからこそ娘の一言が胸に突き刺さったのです。当時、娘はきつと悩んでいたのでしょう。灼熱のエジプトでの数日が娘に何をもたらしたのかは分かりません。ただ、どの子もそれぞれに口に出せない思いを胸にしまいこんでいるに違いないのです。

この暑さの中、子どもたちはどうしているのでしょうか。ことばに出来ない思いを気づいてあげたいですね。でも、本当に暑いです。

「感覚統合」って何？

〜むつかしいから学ぶ〜

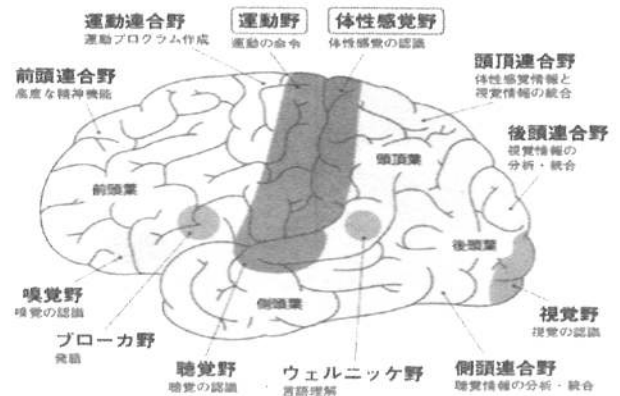


先月、東京から木村順先生を招いて研修会を行いました。岐阜県が招いて研修会を開いたのが四年前です。今回で四回参加しているという方もおられました。木村先生の「なぜ？」という学び方に戸惑っている方も多かったのではないだろうか。私は参加するたびに自分の学びの浅さを思い知らされています。今回は私なりに感覚のこととまとめてみようと思います。

脳の働きと感覚

私たちが目で見たり、音を聞いたり、においを嗅いだり、外界の刺激を受け取って理解していくのは、受容器（耳や目）から入った情報を脳が適切に整理してくれるからです。ね、脳のどの部分がどんなことに携わっているかということとがだんだんと分かってきました。それは、大脳生理学や解剖学といった医学分野の問題ですが、例えば言葉に關して、発語をつかさどる所はブローカ野という所で、理解する所がウェルニッケ野という所だと知ると、理解と発語のつながりって面白いなあと思います。下に脳のしくみ

脳の仕組み



について簡単な絵を示しておきました。聴覚視覚、嗅覚などの他に体性感覚野という所があります。ここが触覚刺激を司る脳の部位になります。

この図は、顔の左側面から見た図ですが、単に大脳皮質だけを示していません。その点ご承知おき下さい。

私たちの体は、外からの刺激を受容器が受け止め、脳に送り、脳からの指令によってことは話したり、手足を動かしたりしているわけですが、脳の中では、色々な部位が協力合っています。外から入ってきた情報を的確に判断して行動に移していくわけですから、脳ですごく重要です。

さて、感覚ですが、私たちは感覚というと、すぐに五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）を思い浮かべます。しかし、感覚には深部感覚といわれる固有覚と平衡感覚といわれる前庭覚というものがあります。これらの感覚は私たちが意識していないものですが、実は生活していく上で

いや、生きていく上でとても大切な感覚です。

一九六〇、七〇年に、アメリカの作業療法士のエアーズが、学習障害児や一部の自閉症児に対して神経生理学の立場から感覚統合療法を編み出しました。それから半世紀以上が経ち、感覚に困りもつ子のことがだんだん理解されるようになってきました。木村先生は触覚・固有覚・前庭覚を基礎感覚ととらえられ、それぞれのつまづきによってどんなことがおきるのかを資料から読みとってみました。

触 覚

触覚には情緒の安定（抱っこ）防御する（熱い物）識別する、身体の輪郭を感じるなどの働きがあります。触覚につまづきが生じると触覚防御反応という反応が現れます。

触覚には原始系と識別系というものが、原始系は人間の進化の過程で残った触覚機能で、捕食、外敵と闘う、外敵から逃げるというような反応のことで、普通は識別系によって抑制されているのです。しかし、それがうまくいかないと、抱っこはイヤ、洗顔や散髪、歯みがき、爪切、耳あか取りなどといった身の回りのことを拒否することになるのです。自分からは人にベタベタと近寄ってくるのに、こちらが近づくのを嫌だという子もいますよね。それに、そーっとやさしくさわられることにも拒否反応を示してしまったりします。そういう反応は頭や顔、首、歯や爪、脇腹に出やすく手足に

は比較的出にくいと考えられています。

触覚防御反応があることを知らずにスキンシップをしてあげなければと思って抱いたりすると、嫌がったりするでうかう、人との関係もうまく作れないことになり、抱く時はできるだけ手の平全体を使って力を均等に抱き上げることが必要です。

のりやスライムなどの感触が嫌な子に、慣れさせようとして無理にさわらせると二度とさわりません。「やせられる」ことで慣れることはまずありません。自分からさわってみようかな……という気持ちにどうもっていかねば先生方の腕の見せどころでう。

識別系というのは、意識的にさわった物の形や素材、大きさなどを識別する働きです。原始系が強く出てもう触覚防御反応の出る子どもたちは識別系が弱いので、体にシールを貼って「シール当て」をしたり、手探りで「形・物あてクイズ」をしたり、触覚あそびを考えてみましょう。

前庭覚

前庭覚を司っているのは内耳にある三半規管です。バランス感覚やボディイメージ、運動企画に関係していると言われています。地球の重力に対して姿勢を保つ働きや、体の傾きを知ってバランスをとる働き、目で見て自分の動きをコントロールする働きもあります。

前庭覚につまづきがあると、揺れをこわがったり、慣れない姿勢をこわがったり、姿勢が保持できず寝ころがったりします。目の働きとも関係して注視や追視、視線を合わせることの苦手さにつながっ

たりします。この感覚が低反応の場合、落ちつきなく動き回ったり、回転したり、高い所に登ったりします。低反応の子の場合には、回転イスやハンモックでの回転やスクーターボードなどの線加速度の遊びなどを取り入れていきます。

眼球運動とも関連しているのがキャッチボールやカード取りなどの苦しさなども前庭覚と関係している可能性があると言えるでしょう。

固有覚

固有覚は筋肉や腱、関節の中のセンサーを総称して固有覚と言っています。力の加減や運動をコントロールする、姿勢を保つ、バランスをとる、身体の地図や機能を把握する、情緒を安定するなどという働きがあるとされています。力の加減がうまくいかなくて、「ねえ、遊ぼうよ。」と言うつもりで友だちにタッチしたところ「叩かれた。」とトラブルになることはよくありますね。

道具を扱う時、「さうと。」「やさしく。」と言われても、乱暴に扱っていると思われて叱られる子もいます。

ボディイメージとも関連していて、自分の手足の曲げ伸ばし具合は、固有覚の働きです。

でも、サッパの前庭覚のところでも確かボディイメージが出てきました。そうなのです。自分の体の実感であるボディイメージには、前庭覚も固有覚も融覚も関係しているの

です。自分の体の輪郭、手・足の輪郭、サイズ、位置や部位に関しては融覚が、自分の手足や体の曲げ伸ばしや力の加減には固有覚が、そして自分の体の軸の傾き具合は前庭覚というようにお互いの感覚が関連し合っているわけです。

子どもの困りの要因は？

子どもたちは、色々な困りをもっています。でもその困りの要因が何なのかを知らない。その子に対して適切な支援・指導をしていくことはできません。単に一つの要因だけではない場合もあるでしょう。でも、私たちの気づきがなく、変わったことをする子とか、何にでもこわがる子等と決めつけてはいないでしょうか。私たちが無知のために子ども達を不安におとし入れてはいないでしょうか。

昔、重力不安の子がいて、抱きながらトランポリンを跳んだり、抱きながらフランクを揺らした日々のことを思い出しましたが、感覚統合は、その子一人ひとりの困りをしっかりとらえていくことの難しさも感じます。理論と実践、決してたやすくはありませんが学びつづけていきたいですね。

<9月の予定>

- 3日(水) ピアサポート
- 8日(月) センター親の会
(スイトピアセンター 6Fです)
- 24日(水) 療育スタッフ研
(榎町)
- 25日(木) ケース検討会
(ソフトピアジャパン センター 10F)

